

1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長	交通対策課長 田中 浩史	電話番号	0852-22-5898
----------	--------------	------	--------------

事務事業の名称	出雲空港路線の維持・充実事業		
目的	(1) 対象	出雲空港利用者	
	(2) 意図	出雲空港の大都市圏でのPR、利用促進キャンペーン等の利用促進事業を実施し、利用者を増やすことにより、路線の維持充実に繋げ、利便性を向上させる。	
事業概要	出雲空港路線の利用者拡大を図るため、21世紀出雲空港整備利用促進協議会が実施する利用促進事業費の一部を助成する。利用者の利便性の向上を図るため、利用しやすいダイヤ・機材の大型化・運賃の低廉化等について、航空会社に対する要望を行う。		

2. 成果参考指標

成果参考指標名等		年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	単位
1	指標名 出雲空港の乗降客数	目標値	80.0	82.5	85.0	87.5	90.0	万人
		取組目標値						
	式・定義 出雲空港定期便の年間乗降客数	実績値	82.9					%
		達成率	103.7	-	-	-	-	
2	指標名	目標値						
		取組目標値						
	式・定義	実績値						%
		達成率	-	-	-	-	-	

3. 事業費

	前年度実績	今年度計画
事業費(b) (千円)	17,939	14,772
うち一般財源 (千円)	17,939	14,772

4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	②改善策を実施した(実施予定、一部実施含む)
---------------------	------------------------

5. 評価時点での現状(客観的事実・データなどに基づいた現状)

平成27年度の出雲縁結び空港の利用者は、全体で829,111人(利用率72.7% 対前年度比105.7%)で、各路線別の状況は次述のとおり

- ・東京線の利用者は、593,718人(利用率78.3% 対前年度比99.1%)。平成26年11月～3月の1日6便運航が、平成27年は5便に減少したことによる。
- ・大阪線の利用者は、137,579人(利用率57.7% 対前年度比109.3%)
- ・福岡線の利用者は、34,888人(利用率65.9% 対前年度比86.3%)。平成26年4月～10月の1日3便運航が、2便に減少したことによる。
- ・隠岐線の利用者は、16,390人(利用率64.1% 対前年度比10.51%)
- ・札幌線(新千歳)の季節運航(8月)の利用者数は、5,112人(利用率86.1% 対前年度比139.4%)
- ・平成26年度末に運航再開した名古屋線は、41,924人(利用率70.4%)と好調であり、平成28年7月から2便運航となった。

6. 成果があったこと(改善されたこと)

- ・東京線の機材については、例年の9月、10月に加え、平成28年は7月中旬からの機材の大型化(中型機の増便)が図られた。
- ・平成26年度末に、10年半ぶりに復活運航した名古屋線は、利用促進対策の効果もあり、利用率が高く、平成28年7月から2便運航となった。

7. まだ残っている課題(現状の何をどのように変更する必要があるのか)

①困っている「状況」

- 1) 冬季の利用客数の減少
- 2) 東京線の通年の増便又は機材の大型化が図れない。(H27年は5便のうち2便が中型機で運航。9月、10月のみ5便のうち4便が中型機)
- 3) 東京線の航空運賃が山陽側と比較して高い。
- 4) 福岡線、大阪線の最終便の時間帯が早い。

②困っている状況が発生している「原因」

- 1) 観光等のオフシーズンであること、積雪・風雪等悪天候により山陰の冬季のイメージがよくないこと。
- 2) 地方路線の羽田発着枠が限られていること。また、中型機が不足していること。
- 3) 首都圏を結ぶ新幹線などの代替高速交通網がないため航空運賃が高い。
- 4) ダイヤ設定には前後の路線との機材繰りが影響することなどから、遅い時間帯のダイヤが組まれていない。

③原因を解消するための「課題」

- 1) 一過性の施策ではなくリピーターにつながる効果的な利用促進策の検討
- 2) 国の地方路線への羽田発着枠の拡大。需要に応じた柔軟な機材繰り。
- 3) 出雲路線に配慮した航空運賃の見直し。
- 4) 出雲路線に配慮したダイヤの見直し、増便。

8. 今後の方向性(課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方)

- 1) 観光部局と連携した効果的な冬季の利用促進対策に取り組む。
- 2) 引き続き粘り強く、羽田線の地方路線への発着枠配分を国に要望する。航空会社へ機材の大型化を要望する。
- 3) 東京線の航空運賃の見直しを航空会社に引き続き要望する。
- 4) 福岡線、大阪線の最終便が出来るだけ遅くなるようなダイヤの見直しや増便を航空会社に引き続き働きかけ、利用者拡大に取り組む。

9. 追加評価(任意記載)

課(室)内で事務事業評価の議論を行うにあたっては、本評価シートのほか、必要に応じて、「予算執行の実績並びに主要施策の成果」や既存の事業説明資料などを活用し、効果的・効果的に行ってください。

上記「5. 評価時点での現状」、「6. 成果があったこと」、「7. まだ残っている課題」、及び「8. 今後の方向性」について、議論がしやすいように、「5. 評価時点での現状→6. 成果があったこと」、又は「5. 評価時点での現状→7. まだ残っている課題→8. 今後の方向性」が一連の流れとなるよう、わかりやすく、ストーリー性のあるシート作成に努めてください。